

# 地域ネットワークニュース

～平成22年4月の勉強会のお知らせ & 3月の勉強会報告～

第150回地域ネットワーク勉強会

## 事例で学ぶ成年後見制度

平成22年4月13日（火）19:00～

保健・福社会館内にて



講師：神栖市社会福祉協議会 名雪義一（社会福祉士 精神保健福祉士）

**事例①** 一人暮らしの高齢者。介護保険を利用して在宅生活を続けている。日常的な悩みはヘルパーさんやケアマネジャーに相談している。通帳を紛失したり、保険証をしまったところを忘れてしまうなど重要書類の管理に不安がある様子。

**事例②** 21歳の知的障害のある男性。民間企業への就職を期にアパート暮らしを始めたが、アパートの家賃や光熱費など月々にかかる費用の計算が苦手で、ついつい給料を使いすぎてしまい、電気が止められそうになることもある。

**事例③** 一人暮らしの高齢者。土地を所有し、預貯金もある。民生委員が訪問したところ「布団を買った」「シロアリの駆除が来た」など本人が話されていたため、契約書を見るとかなり高額であった。最近になって同じことを何度も話したりすることもあり、認知症も考えられる。

上記のように、判断能力の衰えは本人が自覚することは難しく、気づかないうちに悪質な訪問販売被害など多大な不利益を被ってしまうおそれがあります。

成年後見制度は特に権利侵害を受けるおそれのある、認知症や知的障害、精神障害などの判断能力に欠ける人たちに代わって本人の権利を守り、その人らしい暮らしをお手伝いする制度です。

今回の勉強会では、日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）と成年後見制度の違いや実際の支援について、具体的事例を交えてお話しします。高齢者や障害者に関わる支援者の皆さんと共に制度の理解を深め合い、活用していくことで権利侵害を防ぐことができます。

皆さんの参加をお待ちしております。

第149回地域ネットワーク勉強会報告 平成22年3月9日開催 <参加者17名>

### 「千葉県における障害者の地域生活支援」 ～中核地域生活支援センターの役割と機関連携～

【中核地域生活支援センター海匝ネットワーク 白井正和氏（社会福祉士）】

千葉県独自の相談機関である中核地域生活支援センターは、対象者を限定しない包括的な支援を展開しています。

「高齢者の介護や障害者の地域生活、多重債務の問題、DVなど、様々な相談が寄せられています。これらのような相談は、一人がひとつだけ抱えている問題ではなく、その世帯で複数抱えていることが多く見受けられます。でも、スーパーマンではない職員は一人ですべてを解決することはできません。そのために、他の支援者（関係機関）とつながり、それぞれの課題に向けて一緒に解決へと導いていく相互の協力が必要になります。そのコーディネートをするのが役割です。」と、福祉の総合相談を担う立場として重要な「つながり」をキーワードに中核地域生活支援センターの取り組みを伝えていただきました。

個別のケースを地域の課題へと顕在化させること、それぞれの立場で何ができるのかを理解し合うことなど、社協の地域福祉活動の「要」ともいえる『地域と関係機関のつながり』の大切さを、具体的事例を通じて振り返ることができた勉強会でした。



お問い合わせ：神栖市社会福祉協議会 まちづくりグループ 0299-93-0294